



まちの話題

問 秘書広報課：☎0869-24-7095

地域の活性化と音楽文化を通じた“心の響き合い”

第1回夢二コンクール

中央公民館で1月14日、第1回夢二コンクールを開催しました。

詩人でもあり「宵待草」で有名な画家・竹久夢二と、誰もが楽しむことができる「音楽」を結び付け、市民と市との協働による芸術文化を生かしたまちづくりを進めようと、「夢二のふるさと芸術交流プロジェクト実行委員会」が企画。この日は、声楽部門とフルート部門の本選が行われました。

本選には予選を通過した20人が出場し、日頃の練習の成果を披露。来場者はその美しい歌声と音色に聴き入っていました。

両部門の優勝者は、来年度開催のプレミアムコンサートに出演する予定です。



美しい音色を響かせた八百板さん(写真右)



情感を込めて歌った藤本さん

フルート部門優勝者：八百板芽威さん(東京都)(写真左)
声楽部門優勝者：藤本保江さん(横浜市)

コンビニで住民票などの証明書を手軽に取得

証明書のコンビニ交付開始



マイナンバーカードを使って手軽に取得できます

市では、1月15日からマイナンバーカード(個人番号カード)を使って、住民票の写しなどの証明書をコンビニエンスストアで取得できるサービスを開始しました。

全国のセブンイレブン、ローソン、サークルKサンクス、ファミリーマート、イオンリテール、ミニストップなどのマルチコピー機設置店で、住民票の写しや印鑑登録証明書、課税証明書(いずれも1部300円)を取得することができます。利用時間は午前6時30分から午後11時まで(年末年始を除く)です。皆さん、ぜひご利用ください。

災害対応力のさらなる充実強化を

瀬戸内市消防出初式

中央公民館で1月21日、瀬戸内市消防出初式を行いました。

式典では、消防団の新入団員に辞令を交付した後、消防活動により功績のあった団員などに対し、表彰状を授与しました。

福池幹夫団長は「今後もより一層消防団の使命を全うするため、平素の訓練はもちろん防火・防災の予防啓発を重点的に推し進め、皆さんと共にさらなる災害対応力の強化を図らなければならない」とあいさつ。最後は、瀬戸内市消防の発展を願い、万歳三唱を行いました。



福池団長(写真左)から辞令を受ける新入団員



市消防の発展を願い、万歳三唱

瀬戸内発見伝

巻之百三十一

幕末維新期の動乱と岡山 重要な役割を果たした伊木氏

2018年は「明治維新150周年」にあたります。各地でこれを記念した行事が催され、NHK大河ドラマも「西郷どん!」という、「明治維新」にちなんだものとなっています。

このころの岡山では、どんなことが起こっていたのでしょうか。

岡山藩の動向と伊木忠澄

江戸時代も終わりに近い嘉永6(1853)年にアメリカのペリー艦隊が日本にやってきてから、全国的に対外的な危機感が高まりました。いわゆる「黒船来航」です。徳川幕府から房総半島の海



伊木忠澄(邑久町史通史編より転載)

防警備を命じられた岡山藩では、約1,500の軍勢を繰り出しますが、総督として軍勢を率いたのは、家老の伊木忠澄(のちの伊木三猿齋)でした。伊木忠澄といえは、虫明に陣屋を構え、虫明焼の振興にも力を尽くした人物です。安政5(1858)年、幕府が日米修好通商条約に調印すると、国内では外国人を排

斥しようとする攘夷運動が激しくなり、やがて幕府を倒そうとする動きも活発化していきます。岡山藩は幕府と反幕府勢力の間で微妙な立場となります。忠澄は文久3(1863)年ごろに度々体調不良をうって、翌年には隠居を願い出ていました。しかし、藩主の信頼が厚かった忠澄は隠居をなかなか許されませんでした。そんな中、元治元(1864)年に岡山藩は幕府から長州藩への出兵を命じられます。岡山藩はもともと出兵には消極的でしたが、忠澄は岡山藩主の名代として長州藩攻撃を止めるよう幕府軍に働き掛けていました。また、忠澄とその側近であった近藤定

常は、諸藩の有志からも頼りとされ、藩の外交窓口として重要な役割を果たしていました。松山城開城と伊木忠恭 幕府が政権を天皇・朝廷に返還する「大政奉還」が行われると、薩摩藩・長州藩を中心とした明治新政府が発足し、旧幕府勢力との間で戦闘が繰り広げられました。そのような中、明治元(1868)年、岡山藩は新政府から旧幕府勢力とされた備中の松山藩などの「征討」を命じられました。征討総督に任命されたのは、ようやく隠居が認められた忠澄の子息、伊木忠恭でした。忠恭は備中松山城(高梁市)に向けて出陣しましたが、松山藩では、松山城を明け渡し藩主板倉家の家名存続を嘆願することとなりました。松山藩から忠恭に嘆願書が提出されたことで、戦闘が行われることなく、備中松山城

明治の世へ 岡山地域では各藩とも比較的に早くから新政府への帰順を表明したため、大規模な戦闘は行われませんでした。ほぼ従来どおりの藩が存続し、備中では旧幕府領を管轄する倉敷藩が置かれました。明治4(1871)年には、廃藩置県によって藩から県へと変わりました。現在の岡山県内には当初14県ができましたが、統合と再編が行われ、備前地域に岡山県、美作地域に北条県、備中地域(一部備後含む)に深津県(のち小田県)が設置されました。明治9(1876)年には、ほぼ現在の岡山県と同じ県域が確定しています。

【参考文献】
・『岡山県の歴史』
・『邑久町史通史編』